

平成24年度第1回福岡県がん診療連携協議会議事録

日 時	平成24年9月10日（月） 14時00分～16時00分
場 所	九州大学病院 会議室2（外来診療棟5階）
出席者 49名	別紙出席者名簿のとおり
九州がんセンター（院長）	<p>1) 開会の挨拶 ただ今より平成24年度第1回福岡県がん診療連携協議会を開催いたします。 今回は会場を九州大学病院にお願いしました。ありがとうございました。それでは、議事次第にそって進めていきたいと思っております。</p>
九州大学病院（院長）	<p>2) 開催病院長 挨拶 本日は九州大学病院にお集まりいただきありがとうございます。 今年度は次期のがん対策推進5カ年計画の見直しの時期であります。福岡県がん対策推進計画の見直しのところで、重点項目としてがん登録の推進や、一般施策としてがん予防の推進、がんの早期発見の推進、がん患者の就労を含めた社会的な問題などの事項が挙げられています。本日の協議会でもいろいろな審議事項について協議し進めていくことで、がん患者さんのQOLも含めて、がん対策が推進されることを願っております。本日の会議が実りあるものになることを期待しております。</p>
九州がんセンター（藤）	<p>3) 各専門部会の現状報告 ①地域連携・情報専門部会 地域連携・情報専門部会の報告をさせていただきます。 （別紙資料にて説明）</p> <p>1. がん地域連携クリティカルパスに関するアンケート調査について 前回の協議会の際に連携先の開業医に対してアンケートの実施についてお知らせしておりましたが、拠点病院18施設でがん地域連携パスの運用を行った連携施設（151施設）に対して、県医師会の了承のもとアンケートについて協力を依頼したところで、回答は9月10日の締切としており、現在50施設より回答を頂いているところです。今回のアンケート結果については地域連携・情報専門部会のなかでディスカッションを行っていきたくと考えております。</p> <p>2. 福岡県地域連携の会について すでにWEB会議にて拠点病院の皆様から承認頂いておりますが、拠点病院以外に県医師会の津田先生、県歯科医師会の今里先生にも加わっていただき、NPO法人「よりよい地域医療を応援する会」もメンバーとして「福岡県地域連携の会」を立ち上げました。皆様方には世話人としてご協力いただきました。極力業務が増えないような形を考えておりますので、会議の際にはご出席いただきたいと思っております。今後につきましては、連携先の開業医に対して実施したアンケート結果を踏まえて部会で検討し、その結果を受けて、福岡県地域連携の会の中で今回アンケートの回答を頂いた開業医の先生方と顔を合わせて連携パスの問題点についてディスカッションしていければと考えております。</p> <p>3. 情報提供・相談支援部会について 5月に国立がん研究センターで開催された全国都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会のなかで話があり、今まで臨床試験部会、がん登録部会がありましたが、新たに情報提供・相談支援部会を作ることとなりました。情報提供・相談</p>

支援部会の役割としては、国立がん研究センターでがんに関するパンフレットやガイドなどを作成していますが、国民に対してどのようなものを作成し情報提供を行っていくか、相談員をどのように育てていくのか等々について議論されていくと思われます。第1回の情報提供・相談支援部会が11月27日に開催される予定で、当院から2名（藤、竹山）が参加いたします。

3. 国立がん研究センター（がん対策情報センター がん情報サービス事務局）からの資料による情報提供について

○相談支援員教育体制の今後について

拠点病院になるための指定要件として相談支援センターを設置することとなっており、相談員はこれまで国立がん研究センターで研修を受けており、研修のプログラムのなかで、基礎研修（1）～（3）がありましたが、将来的には各都道府県単位で研修を行い地域の相談員を増やしていくこととなり、研修を行う際の指導者を研修する役割も都道府県の拠点病院が担っていくこととなります。現在、相談員を育てるための指導者の研修が国立がん研究センターで行われており、去年は九がん、九大病院、社保田川病院、大牟田市立病院から参加しております。今年は九がん、北九州市立医療センター、九州厚生年金病院から担当者が参加しております。また、将来的には研修プログラムの基礎研修（1）～（3）についても見直しがなされ、完全に都道府県のなかでプログラム等についても検討していくようになると思われます。

○地域懇話会シリーズ：地域相談支援フォーラムについて

国立がん研究センターの第1回目地域相談支援フォーラムが全国に先駆けて九州地区（熊本）で開催される予定です。出席者への案内や開催日時、参加可能な人数等の詳細はまだはっきりしていませんが、先程説明した相談員の研修の件や隣接した県をまたいだネットワークの構築などについて、実務者への周知活動として開催されます。皆様方へは県の方からご案内が届くと思いますので出来れば出席して頂ければと思います。

以上報告となります。何かご質問はありますか。

福岡大学病院
（田村）

5大がんのパス以外で運用が軌道に乗っているものはありますか？

九州がんセン
ター（藤）

基本的には拠点病院の中で共通のパスを動かして行こうとのスタンスで運用していますので、厚生局に届出をして診療報酬請求を行っているパスはないと思います。新たながんのパスに取組んでいく必要もあるでしょうし、5大がんの次のステージについても取組む必要もあると考えています。

福岡大学病院
（田村）

両方について取組んでいく必要があると思います。

九州がんセン
ター（藤）

この件については次回の地域連携・情報専門部会においても話し合いを行っていきたいと思います。

久留米大学病
院（鹿毛）

パスの運用状況の中で、肝がんについては、実施が難しい状況はあるかもしれませんが、肺がんと肝臓がんが少ないが何かあるのでしょうか？

九州がんセン
ター（藤）

胃がんや大腸がんについては、今回の調査よりも前に先行して実施していた状況があり、その他については調査の段階で動き始めたばかりだったためです。しかしながら肝臓がんについてはC型肝炎フォローアップの問題もあり難しく、慎重に行わなければならない状況もあり実施件数が伸びていない部分もあります。

②がん登録専門部会

がん登録専門部会の報告をさせていただきます。
（別紙資料にて説明）

九州がんセン
ター（西山）

1. 「報告事項1」(全国版)がん登録部会報告について

○第1回がん登録部会(平成24年6月9日 於:国立がん研究センター)の報告

- ・今後のがん登録の全国集計における公表方針として、セカンドオピニオン症例は除外することが決定された。
- ・平成23年度に国立がん研究センターより各県に予後調査支援事業として依頼され、福岡県からは済生会福岡病院、聖マリア病院、飯塚病院、産業医科大学病院が参加して全国的に各自治体の予後調査への協力体制についての調査が実施された。
- ・国からの委託事業として、国立がん研究センターが依頼したにも関わらず、1705市町村のうち半数は無償にて対応しているが、まだ半数の自治体が有償又は回答に応じない状況であった。
- ・対象症例でいくと3割弱が無償対応、6割は有償にて対応していた。これは大都市圏の市町村は対象者が多くいるが、無償対応を行っていないことを意味しており、まだまだ各自治体の協力体制は厳しい状況であると思われました。

○第2回がん登録部会(平成24年8月31日 於:国立がん研究センター)の報告議事録について

- ・院内がん登録2007年データの3年生存率については、施設名は非公表となる見通しである。(都道府県単位で生存率の公表を行う方針)
- ・院内がん登録2008年データの3年生存率については、施設名についても公表を行う事を前提に議論が開始される見通しである。
- ・現段階で国がんが考えている公表の基準としては、都道府県単位で、予後判明率90%以上、部位別の登録症例数が50症例以上となっている。
- ・福岡県下でも一部の施設で予後判明率が低いいため、がん登録部会でご協力できることがありましたら、相談いただければと思います。

2. 「報告事項2」福岡県がん登録部会開催報告について

○第1回(福岡県)がん登録専門部会(平成24年7月30日 於:済生会福岡病院)議事録について

- ・がん登録データの還元及び今後のスケジュール等について

・2007年登録データ	国がん提出	2008年12月
	福岡県内データ還元月(県受領)	2010年2月
	2007年予後情報については、2012年11月に提出予定	
・2008年登録データ	国がん提出	2009年12月
	福岡県内データ還元月(県受領)	2011年12月
	施設別データの公表(国がんより)	2011年7月
・2009年登録データ	国がん提出	2010年12月
	福岡県内のデータ還元月(県受領)	2012年6月
	施設別データの公表(国がんより)	2012年3月
	福岡県地域がん登録データ抽出	2011年9月
・2010年登録データ	国がん提出	2011年12月
	福岡県内のデータ還元月(県受領)	未定
	施設別データの公表(国がんより)	2012年10月予定
	福岡県地域がん登録データ抽出	2012年7月
・2011年登録データ	国がん提出	2012年11月～
		12月予定

※ネット型での登録が11月中旬頃から開始
(直接受付(CD-R等)は12月から)

福岡県地域がん登録提出月 2013年中旬頃

以上のような流れで院内がん登録の業務を行っております。目立った進捗状況ではありませんが、確実に少しずつ進んでいることが分って頂けると思います。次に報告する内容は、院内がん登録から得られた情報をもとにどのようなデータ解析が出来るかについて、水元先生より説明頂きたいと思っております。

3. 「審議事項1」福岡県がん診療連携拠点病院がん登録データ利用規約について

○分析対象症例について

- ・今回、2008年の福岡県内の18拠点病院の症例(総件数19190件)について、発見経緯、検診発見率について分析を実施した。
- ・臓器別件数(男女別)のデータによる分析、各癌別(胃・大腸・肝・肺・乳・

	<p>子宮・前立腺)の発見経緯(ステージ別)のデータによる分析により説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胃癌(2300件)の発見経緯は、検診やドック(18.7%)、他疾患経過観察中(29%) その他有症状(52.3%)となっている。 ・大腸癌(2477件)の発見経緯は、検診やドック(14.7%)、他疾患経過観察中 (26.2%)と胃癌と同様の比率であった。 ・肝癌(1148件)の発見経緯については、検診等により発見された割合は非常に 少なく他疾患経過観察中が63.7%であった。 ・肺癌(2210件)の発見経緯については、検診やドック(14.6%)であった。 ・検診等の発見経緯による発見率は乳癌(25%)、前立腺癌(21.9%)、子宮頸癌 (20.9%)であり、検診による発見率が高いと言われているが、今回調査した データからも検診やドックにより発見されたことがわかった。 ・がん検診や健康診断、人間ドック発見例によるがんの部位別ステージ割合によ るデータから乳癌はステージ0-IIが95.5%と非常に高いことがわかりました。 ・胃癌の年齢別(5歳刻み)による検診等での発見率グラフでは、70-74歳の件 数が1位、75-79歳が2位であったのに対して、癌により受診した患者のなか で検診等での発見率は50-60代が30%で、癌の罹患件数が多い70代につい ては、検診等での発見率は10%台であった。がん検診や人間ドックは癌の早期発 見に有用であるが、高齢者層の発見経緯の中でその割合が低い状況であった。 ・福岡県には説明しているが、今回調査した際の実データには市区町村までの情 報は含まれていない。そのため各施設の協力をいただき、2008年のデータに各 施設が持っている住所のデータと一致させれば、市区町村別の癌患者のデー タをもっと詳細なデータとして作成することが可能となる。 ・このようなデータの公表を県民の皆さまに行うことの上承を頂ければと思いま す。福岡県はがんの検診発見率が全国的に下位の方です、これからは全国の方 針も可能となりますので、地域の取組の指標になると考えております。
九州がんセン ター(西山)	<p>「福岡県がん診療連携拠点病院院内がん登録データ利用規約」(案)が先日のがん 登録部会で承認されております。この規約に定められた内容については、国がん作成 全国版の利用規約に対して利用制限を厳しくアレンジして福岡県版として作成して おります。内容等に問題がないようでしたら各施設の皆さまに承認頂けたらと思いま す。</p>
九州がんセン ター(院長)	<p>個人情報に関して問題はありますか。</p>
九州がんセン ター(西山)	<p>個人情報に関しては問題ありません。規約の中に「利用者は、あらかじめ申請時 に明示して承認を受けた場合を除き、データから個人識別情報の特定を行ってはな らない。」と定めております。これは、全国版にならって特殊ながんなどについて は、個人が特定されてしまう可能性があるため、このような項目を設けました。ま た、データを利用出来る職員についても、全国版は各研究班なども利用することが 出来ますが、福岡県版は拠点病院及び福岡県指定拠点病院の職員及び福岡県のがん 対策に関係する職員に限定しており、個人の特定が出来ないような配慮を考え厳し く制限しています。</p>
九州がんセン ター(院長)	<p>公表する際の制限については何かありますか。</p>
九州がんセン ター(西山)	<p>利用者については、利用目的を明らかに示していただき、がん登録ワーキンググ ループで審査承認するように考えています。</p>
九州がんセン ター(西山)	<p>この他にもう一点審議事項として、水元先生より話がありましたが、国がんの報 告には患者氏名や住所等の情報を除いて提出を行っており、各施設が提出した本来 の元データには市区町村の住所データがあります。そこで、各施設より住所等のデ ータを当院のがん登録室に提出いただき、がん登録データと住所データの紐付作業 を実施したいと考えておりますが、その点についてご承認いただければと思いま す。 個人情報の観点から紐付作業を行うことに関して問題がないか、現在福岡県の方 で確認作業を行って頂いております。</p>

九州がんセンター（院長）	<p>福岡県の返事を待つてからの話でこの場で決定は難しいでしょうから、あとはがん登録部会の書面会議において各施設の承認を受けることにしてはどうでしょうか。</p>
九州がんセンター（西山）	<p>わかりました。以上が報告と審議事項になります。</p>
九州大学病院（水元）	<p>追加説明ですが、2007年の予後調査の公表に関して指針が明確に出されており、予後判明率が90%未満の施設については公表されないこととなっております。福岡県は90%ぎりぎりとなっております。各施設で判明率が低い施設におかれましては、国がんへの締め切りまであと2ヶ月ありますので、予後調査に関して是非努力していただければと思います。</p> <p>来年度以降の予後調査に関しては、①従来通り各施設が自治体に調査を行うか、②国がんの予後調査支援事業に参画して委託した形で国がんから各自治体に調査を行うかになる可能性がある。説明があったように全国的には国がんからの依頼であっても約半数は有償での回答となっている。福岡県の状況は、福岡県の取組により約9割の自治体が無償での対応を行っている。そのため、予後調査支援事業により予後調査を行っていくよりは、従来の方法により予後調査を実施していった方がよいのではと考えている。</p>
九州がんセンター（西山）	<p>自治体にとっては、各施設から紹介があった場合、その度に予後調査に回答するのではなく、まとめて1回の回答でいいというメリットもあり、いろいろなご意見があると思いますのでこの点については、部会において話合っていきたいと思ます。</p>
九州大学病院（水元）	<p>③研修・教育専門部会 研修・教育専門部会の報告をさせていただきます。 （別紙資料にて説明）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研修・教育専門部会委員名簿について （今年度7月現在の研修・教育専門部会委員及び交代者について説明） 2. 平成24年度九州大学病院研修会等開催予定 九州大学病院で教育・研修部会に関連した研修会の開催実施済み又は開催予定の内訳は以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> ◆九州大学病院がんセミナー（年5回） ◆福岡県コメディカルがん医療研修会（年3回） ◆福岡県院内がん登録研修会（年4回） ◆福岡県がん診療連携協議会 MSW研修会（年2回）（開催日未定） ◆第4回 九州大学病院 医師に対する緩和ケア研修会（年1回） ◆薬事連携セミナー（年6回） ◆市民公開講座「平成24年10月21日（日）」 ◆膝がん勉強会（月1回） ◆九州大学病院がんセンタークローバー会（月2回） 3. 今年度の医師に対する緩和ケア研修会について 緩和ケア研修会については、専門部会を開催し、書面会議を3回開催し様々なことについて検討を行ってきたので、その点について説明を行ったうえで承認を頂きたい。 <ul style="list-style-type: none"> ○平成23年度第3回研修・教育専門部会（H24/3/5）議事録について <ul style="list-style-type: none"> ・出席者は拠点病院の18施設以外に今回は、次年度に緩和ケア研修会開催を予定している8施設もオブザーバーとして参加頂いた。 ・日本医師会生涯教育講座単位についても、福岡県医師会の協力を得て単位が取得できることとなった。 ・近年コメディカルの方に多く参加頂いているが、コメディカルの方へは研修の修了証を発行していなかったため、県へ発行を依頼した。 ○平成24年度第1回研修・教育専門部会書面会議（H24/5/7～5/16）について <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア研修会に開業医の先生方の参加が少ないことから、県医師会報に開催スケジュール等を掲載していただくこととなった。

福岡県（白石）	<ul style="list-style-type: none"> ・県よりコメディカルの修了証についても福岡県知事名で発行して頂けることとなった。 ○平成 24 年度第 2 回研修・教育専門部会書面会議（H24/6/11～6/29）について <ul style="list-style-type: none"> ・小倉医療センター及び田川市立病院から緩和ケア研修会の開催について申込があり、部会の書面会議にて承認された。 ・新規に開催を申し込む施設においては、開催の実施状況について部会からアンケートを行い、明らかに研修会の質の低下が懸念される施設に対しては、福岡県と連携して指導を行うことを取り決めた。 ・研修会の参加施設が増加しており、同一開催日の施設は、受講生が減少するなど研修会の質の低下が予想されるため検討が必要であるとの意見があった。 ○研修・教育専門部会 緩和ケア研修会プログラム検討委員会（H24/8/22） <ul style="list-style-type: none"> ・以前の部会において医師会報に研修会の日程を掲載して頂けることとなり、4月号に掲載していただいたが、1度だけでは広報が不十分であるとのことで、再度福岡県より福岡県医師会へ掲載について相談することとなった。 ・開催日程だけではなく、募集開始の広報が不十分であるとの意見があり、福岡県に開催日程を報告する際に、募集開始についても情報提供を行うことで、県のホームページに広報を行うこととなった。 ・非医師会員の開業医の先生方への広報として、保健所を通じた情報提供について福岡県で検討して頂くこととなった。 ・コメディカルという表現が好ましくないとの意見があったことから、名称をメディカルスタッフし、メディカルスタッフの参加については3年以上のがん診療に携わった経験を持つ者で企画責任者が認める者とした。 ・単位管理についてA課程終了後にB課程を受けていない方の把握がきちんとされているかを調査したところ、B課程未受講者には各拠点病院や県の方から連絡がされており、管理されている。 ・「新規に研修会を開催する施設のファシリテーターとして企画責任者の経験を持つ者が参加することが望ましい」を目標とすることをプログラム検討委員会から部会へ提案した。 ・研修会参加者が少ない場合、質の低下が懸念されるため12人以上の参加者募集を行うことが望ましいと提案した。 ・精神症状のセッションにおいては、講義を実施する者は精神腫瘍学の教育を受けたものであることを明記した。 ・単位型緩和ケア研修会の資料について、11～12月を目処に新しい資料に大幅改定される予定だが、資料が公開される日程は未定である。今後、部会として統一の資料を県内で一括に印刷することを検討している。 ○平成 24 年度第 3 回研修・教育専門部会書面会議（H24/9/4～9/7）について <ul style="list-style-type: none"> ・8月に実施された研修会プログラム検討委員会の報告 <p>4. 緩和ケア病棟の待機患者数等の情報提供について</p> <p>現在、県内 21 施設の緩和ケア病棟から待機患者数等の情報を当院にご提供いただいております。拠点病院の相談支援センター等に情報提供している、その状況は資料の通りである。（【福岡県内の緩和ケア病棟における待機患者数等の最新情報】による）</p> <p>④連絡事項（福岡県）</p> <p>福岡県の連絡事項を報告させていただきます。 （別紙資料にて説明）</p> <p>1. 福岡県がん対策推進計画の見直しについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スケジュールについて <ul style="list-style-type: none"> ・今月末を目処に骨子案を作成し、来年1月を目処に計画案を作成後パブリックコメントにて県民の意見を聴取したのち3月に計画を策定する予定である。 ○見直しにあたっての論点 <ul style="list-style-type: none"> 【全体目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・がんによる死亡者数の減少、「がんの年齢調整死亡率（75才未満）の20%減
---------	---

少」

- ・全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上
- ・新たな目標（案）として、がんになっても安心して暮らせる社会の構築を実現することを目標とする。

【重点施策】

- ・放射線療法及び化学療法 of 推進並びに医療従事者の育成
- ・地域がん登録に関する内容も含める
- ・新たな重点施策（案）として、働く世代や小児がんへの対策の充実

【一般施策】

- ・小児がん拠点病院を全国約10か所程度に設置される予定
- ・がん診療連携拠点病院のあり方、整備についても、国で協議が行なわれていく予定であるため、今後がん対策推進協議会等の意見を踏まえて見直しを行っていきたい。
- ・がん予防の観点から喫煙率について数値目標等のことも含めて取組を検討していく。
- ・がんの早期発見の推進を図るため検診情報の項目や検診結果通知書などの様式の統一化などの必要性も感じている。
- ・がん患者の就労を含む社会的な問題についても論点として挙げている。

以上の点について、検討を行い福岡県がん対策推進計画の見直しを行っていく予定です。また、計画（案）の内容に当協議会の議長及び各部会長には資料を送付しており、事務局長の藤先生にも委員としてご参画いただいております。

2. 現況報告書について

- ・例年10月までに各拠点病院から福岡県の方に報告いただいておりますが、今年度についてもまだ国の方から様式等について通知が届いておりません。毎年非常にタイトなスケジュールとなり申し訳ありませんが、県としましても通知が届き次第送付したいと思います。
- ・指定要件に関して満たしていないなどのご相談がありましたら、ご連絡ください。

4) その他連絡事項

①第5回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会について
(別紙 資料にて説明)

7月23日に国立がん研究センターにおいて、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会が開催されましたので、その際の要点について説明いたします。資料が多く時間の都合もありますので一部の説明しか出来ませんがご了承下さい。

○がん対策推進基本計画の概要

- ・重点的に取り組むべき課題において、手術療法についても質の向上について挙げられた。
- ・緩和ケアの推進の項目において、がんと診断された時からとの文言が具体的に加わり、これまでの初期からとの表現からすれば、さらに開業医の先生方が診断をされた時からということになる。
- ・この点からも是非とも医師会の先生方にも緩和ケア研修会にご参加いただければと考えている。
- ・がん登録の推進においては、医療イノベーションで法的整備を進めていく。
- ・働く世代や小児がん対策の充実として、小児がんの拠点病院を設置することを考えられている。
- ・分野別施策と個別目標においては、「小児がん対策」、「(子供に対する)がんの教育・普及啓発」、「がん患者の就労を含めた社会的な問題」が新たな目標として挙げられている。

○次期がん対策推進基本計画について会場から出された意見について

- ・均てん化に対する批判として、これ以上拠点病院を増やすと、質の低下が懸念される問題があることや、放射線治療に関しては、治療専門医がいない拠点病院がある。(均てん化をどのレベルで集約していくかが問題になると考えられる。)
- ・医師向けの緩和ケア研修の負担が大きいので、簡素化出来ないかとの意見があり協議会から提案書を提出するとの回答があった。
- ・地域連携パスについては、患者側の要望により始まったが効果的に機能して

九州がんセンター (院長)

	<p>いないので見直すべきではないかとの意見があった。 ・がん登録については、平成25年度中に議員立法ですすめられようとしているので、制度化されることに期待しているところである。</p> <p>他にご意見等はないでしょうか。</p> <p>均てん化と集約化の問題について、地域ごとにどこまで均てん化出来るかについては非常に議論されている。岡村議長が言われたように人材と施設の問題がありますように、地域によって状況も異なることから考えていかななくてはならないとの意見もあります。</p> <p>患者会の働きかけにより、がんの教育、小児がん対策、就労に関する問題、などについて課題がありますが、今後5年間に県単位でどのようにして取組んで実績をあげることができるかである。</p> <p>その他として、がん研究の予算が昨年より50%程度減額されたが、このように厳しい現状のなかで、完璧に研究の内容が中間や事後において評価をきちんとしていくことが重要ではないかと考えている。</p>
<p>福岡大学病院 (田村)</p>	<p>均てん化と集約化の問題について、地域ごとにどこまで均てん化出来るかについては非常に議論されている。岡村議長が言われたように人材と施設の問題がありますように、地域によって状況も異なることから考えていかななくてはならないとの意見もあります。</p> <p>患者会の働きかけにより、がんの教育、小児がん対策、就労に関する問題、などについて課題がありますが、今後5年間に県単位でどのようにして取組んで実績をあげることができるかである。</p> <p>その他として、がん研究の予算が昨年より50%程度減額されたが、このように厳しい現状のなかで、完璧に研究の内容が中間や事後において評価をきちんとしていくことが重要ではないかと考えている。</p>
<p>九州がんセンター (院長)</p>	<p>評価の方法としてはクオリティーインディケーターがありますが、これからは医療の質の評価が大変重要になってくるのではないかと思います</p>
<p>福岡大学病院 (田村)</p>	<p>小児がんに関していえば、これから拠点病院の指定要件が示されると思います。患者の親からしてみれば、すぐ近くの病院で診て欲しいとの考えがありますが、専門スタッフの配置や施設の体制の問題もあり非常に難しいところではないかと考えられる。</p>
<p>九州がんセンター (藤)</p>	<p>地域連携パスについては、患者会側からがん難民を無くして欲しいとの要望を受けて取組んでいる事項の一つであります。うまく機能していないという否定的な意見があることは承知しています。ただ、緩和ケアの充実などをすすめていくためにはツールが必要であり、地域に根付いたものでなければならないと考えており、そのための準備を地道に行っている最中です。その一つのステップとしてがんのステージⅠの連携パスからスタートしているものであり、この地道な作業がうまく機能していないと捉えられているのかもしれませんが、地域連携をすすめていかなければいけないということは皆さん認識されているのではないかと考えています。また、このような中で連携パスの実績数が伸びていない状況ではありますが、今後は他の県の実績数や取組状況を見据えながら、将来に向けた連携の質の評価についても考えていかなければならないのではないかと考えています。</p>
<p>九州がんセンター (院長)</p>	<p>他の県でも同様の状況であるようです。福岡県では当初と比較すれば少しずつ動き出しているのではないかと思います。他県の状況などが公表されたら知らせて下さい。</p> <p>他にありませんか。</p>
<p>九州がんセンター (古川)</p>	<p>先ほど田村先生のお話の中で、がん研究に対する予算が削減されたとのことでしたが、例えば、国民の中にはがん対策や研究に寄付を行いたいという方もいらっしゃると思います。そのような方々からの寄付を募りがん対策協議会で取組を行っていくことは難しいのでしょうか。</p>
<p>九州がんセンター (院長)</p>	<p>国立がん研究センター等の国の機関であれば寄付金の受け入れが可能であり、各施設で取組が行われ体制が整っているようです。確かにがん診療連携協議会のような大きな枠組みの中で取組むことができればよいですね。福岡県としてはどうでしょうか。</p>
<p>福岡県 (白石)</p>	<p>対がん協会などの財団などには受入体制はあると思いますが、福岡県が窓口となつてということでは今のところないのではないかと思います。</p>
<p>九州がんセンター (院長)</p>	<p>対がん協会などの財団や国の機関では、ある程度利用目的や用途をはっきりとさせておかなければいけないなどの制限があると思いますが、がん診療連携協議会などの大きな枠組みでの寄付金の受入ということだと思いますので、がん対策推進協</p>

	<p>議会の方でご意見として挙げていただけませんか。</p>
福岡大学病院 (田村)	<p>あと、寄付を行った際の税制上の優遇の点についても考慮されるようなシステムも必要だと考えます。</p>
九州がんセンター (院長)	<p>その点もふくめての寄付金の受け入れ体制と考えますので、意見としてお願いします。</p> <p>大変貴重なご意見ありがとうございます。他に意見はありませんか。</p>
福岡県歯科医師会 (今里)	<p>平成24年6月に策定されたがん対策推進基本計画の中に、“放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とチーム医療の推進”という項目ありますが、“患者の更なる生活の質の向上を目指し医科歯科連携による口腔ケアの推進”という文言が新たに盛り込まれました。キーワードとしまして、口腔ケア、医科歯科連携、が取組むべき施策としてあがっておりますことのご報告をさせていただきました。また、国立がん研究センターと日本歯科医師会との連携が大本の取組として行われており、昨年度から福岡県においても福岡県の8020推進特別事業のなかで、医科歯科連携の取組を行い始めたところです。先日は、九州がんセンターの藤先生に福岡県歯科医師会館で講演を行っていただきました。福岡県歯科医師会としましては、今回の講演のDVDを作成し、県内24支部ある各支部の歯科医師会への伝達講習を鋭意進めているところです。各拠点病院の先生方どうぞよろしくお願いします。以上ご報告です。</p>
九州がんセンター (院長)	<p>歯科医師との連携は今後非常に重要となってきます。歯科を併設していない拠点病院においては、特に歯科医師会の先生方との連携が重要になってきますので、どうぞよろしくお願いします。</p>
福岡県 (白石)	<p>先ほど申し遅れましたが、福岡県のがん対策推進協議会のメンバーに、新たに福岡県歯科医師会長にも参画して頂くこととなりましたので報告をいたします。</p>
福岡大学病院 (田村)	<p>国のがん対策推進協議会の中で歯科医師会の先生に講演して頂いたのですが、その中で化学療法や放射線治療、術前術後において口腔ケアは非常に重要なんですが、何か特別な口腔ケアがあるのかということとそういうわけではなく、一番重要なのは患者さんを教育して近隣の歯科の先生に口腔ケアをお願いするという、いわば周知を行っていくことが重要で、その点をどのように歯科の先生方に橋渡しを行っていくかが重要になってくるポイントではないかと考えていますが、そのような認識でよろしかったでしょうか。</p>
福岡県歯科医師会 (今里)	<p>そのとおりです。</p> <p>福岡県歯科医師会としましては、約500名の歯科医師を対象にDVDによる講習を年内に完了させる予定で準備を進めております。歯科医師の多くはがんの治療に対して不慣れな部分が多く、基礎的な部分を中心に講習において勉強していくというスタンスでございます。ぜひ、よろしくおねがいします。</p>
九州大学病院 (水元)	<p>緩和ケア研修会の件で、開業医の先生方の参加が非常に少ないということで、講師等につきましては拠点病院の方から派遣しますが、県の医師会主催で緩和ケア研修会を開催して頂くことは可能でしょうか、よろしかったらご検討いただければと思います。</p>
九州がんセンター (院長)	<p>医師会の開業医の先生方向けに医師会主導で何らかの研修を行っていただけないかという意見ですが、どうでしょうか。</p>
福岡県医師会 (津田)	<p>わかりました、研修会については施設基準の問題もあり、現在は病院ごとで開催することになっている状況もあったものですから、医師会で行うことに問題はないと思います。あとはどのような単位で行うか、ブロック単位なのかどうかの問題はあると思います。その他に地域連携パスの問題においても、いろいろなバリエーションの問題もあり大変だとは思いますが、いろいろなパスを立ち上げていただければ、県全体の医療レベルの向上にも繋がると思いますので、よろしくお願いします。</p>
福岡大学病院 (田村)	<p>指定要件の中に各施設で緩和ケア研修会を開催しなければならないというのがありますが、15の拠点病院と県や市の医師会が合同でやった場合要件は満たされな</p>

九州大学病院 (水元)	<p>いのでしょうか？</p> <p>その方法では指定要件が満たされません。それぞれの病院はそれぞれの病院で研修会を行わなくてはなりません。今回提案しているのは、講師陣は拠点病院から派遣しますので、全く別個で緩和ケア研修会を県医師会で行っていただけないかということです。</p>
九州がんセンター (院長)	<p>県の医師会の方でご検討いただけますでしょうか。お願いします。</p>
九州がんセンター (藤)	<p>②平成24年度第2回福岡県がん診療連携協議会開催予定について 次回第2回目の開催日及び開催場所は 平成25年2月18日(月) 福岡大学病院 です。</p>
九州がんセンター (院長)	<p>5) 閉会の挨拶 これもちまして平成24年度第1回福岡県がん診療連携協議会を閉会いたします。</p>
	<p>以 上</p>